

ドイツ語 (初級B) / A ドイツ語 第19回 過去形、未来形、現在完了

* 授業の進み方は教科書の順序とやや異なる。シラバスも参照。

範囲: 教科書第12課 A, B (S. 47-50)

《今回の基本例文》

59. Warum antwortete er nicht auf meine Frage? (CD60-1)

なぜ彼は私の問いに答えなかったのですか?

[過去形の人称変化、過去基本形 (弱変化)、(特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語)]

60. Ich dachte oft an meine Freundin. (CD60-4)

私はよくガールフレンドのことを考えていた。

[過去形の人称変化、過去基本形 (混合変化)、(特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語)]

61. Warst du mit seiner Arbeit zufrieden? (CD60-5)

君は彼の仕事ぶりに満足していたの?

[過去形の人称変化、sein の過去基本形、(特定の前置詞と結ぶ形容詞による熟語)]

62. Sie wurde Ärztin. (CD60-2)

彼女は(女性)医師になった。

[過去形の人称変化、werden の過去基本形]

63. Das Konzert fing um acht Uhr an. (CD60-3)

そのコンサートは8時にはじまった。

[過去形の人称変化、過去基本形 (強変化)、過去基本形 (分離動詞)、(時刻)]

64. Die Kinder durften abends nicht ins Kino gehen. (CD61-3)

子供は夜に映画館に行ってはならなかった。

[過去形の人称変化、過去基本形 (話法の助動詞)]

65. Er wird heute krank sein. (CD62-2)

今日、彼は体調が悪いのだろう。

[未来形]

66. Gestern hat es geregnet, und ich bin den ganzen Tag zu Haus geblieben. (CD63-5)

昨日は雨だったので、私は一日じゅう家にいた。

[現在完了 (haben 支配)、形式主語の es (自然現象)、副詞的 4 格]

67. Wann hat die Sitzung angefangen? (CD63-2)

会議がはじまったのはいつですか?

[現在完了 (haben 支配)、過去分詞 (分離動詞)]

68. Sind Sie früher schon einmal in Italien gewesen? (CD63-1)

あなたは以前に一度、イタリアにいらしたことがありますか?

[現在完了 (sein 支配)]

I 過去形・未来形

A. 過去形・未来形 (S. 47)

1 2 動詞の過去人称変化

ich - wir **-(e)n**
 du **-st** ihr **-t**
 er - sie **-(e)n**

主語に応じて動詞の**過去基本形**に上記の語尾をつける = 動詞の**過去人称変化**

◇ ドイツ語の過去形は主に文章で使用するものであり、口頭では現在完了形で代用する(後述)。

◇ ドイツ語の**過去形**も、現在形と同じく人称変化を行う。教科書第 11 章で学んだ過去基本形に上記の変化語尾を加えればよい。

・ lernen の場合: 過去基本形が lernte (規則変化)

→ ich lernte, du lernst, er lernte, wir lernten, ihr lerntet, sie lernten

・ kommen の場合: 過去基本形が kam (不規則変化、強変化)

→ ich kam, du kamst, er kam, wir kamen, ihr kamt, sie kamen

◇ 注意が必要なのは、

・ 過去基本形が -t, -d で終わるもの:

教科書 S. 9 の arbeiten 型に等しく、2 人称単数・複数で語調を整える e を挿入する。

→ ich fand, du fandest, er fand, wir fanden, ihr fandet, sie fanden (finden の過去基本形 fand より)

・ 過去基本形が -s, -ß, -sch, -z で終わるもの:

教科書 S. 9 の reisen 型とは異なり、こちらでも 2 人称単数で語調を整えるための e を挿入する。

→ ich las, du lasest, er las, wir lasen, ihr last, sie lasen (lesen の過去基本形 las より)

* 現在人称変化の場合、語幹が -s, -ß, -sch, -z で終わるものは、ich reise, du reist, er reist... となって e が入らなかった。

◇ 過去形の文をつくるには、過去人称変化を用いればよい。

Was machten Sie? (← Was machen Sie?)

あなたはなにをしていましたか。

Er trank abends Bier. (← Er trinkt abends Bier.)

彼は晩にビールを飲んだ。

◇ 分離動詞を用いた文の過去形は、定動詞第 2 位に基礎動詞の過去人称変化を、文末に前綴りを置く(枠構造)。つまり、語順は分離動詞を用いた文の現在形と同じ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	基礎動詞 (過去人称変化)	…	前綴り

例えば、

Du brachtest eine Flasche Wein mit. (← Du bringst eine Flasche Wein mit.)

君はワインを 1 ビン持ってきた。

3 話法の助動詞の過去人称変化 (S. 48)

◇ 話法の助動詞の 3 基本形は、不規則変化のうち、教科書第 11 課 A で学習した分類における**混合変化**に近い。(⇒授業第 18 回「不規則変化動詞のまとめ」S. 4)

* ただし、過去分詞が 2 種類ある。巻末の不規則動詞変化表を見ると、dürfen – durfte – gedurft / dürfen のように、話法の助動詞には必ず 2 種類の過去分詞が記載されている。完了形をつくる時、本動詞として使用する場合には **ge-**がつく方を、話法の助動詞として使用する場合には **ge-**がつかない方 (不定詞と同じ方) を用いる。本配付資料 S. 8 の参考も参照。

◇ 話法の助動詞の過去人称変化の語尾は、一般の動詞のものと同じ。

◇ 話法の助動詞を用いた文の過去形は、定動詞第 2 位に話法の助動詞の過去人称変化を、文末に不定詞を置く (枠構造)。つまり、語順は話法の助動詞を用いた文の現在形と同じ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	話法の助動詞 (過去人称変化)	…	不定詞

例えば、

Ich konnte das nicht sagen. (← Ich kann das nicht sagen.)
私はそれを言うことができなかった。

4 未来形

werden → 第 2 位 (定動詞の位置) 不定詞 → 文末

◇ ドイツ語の**未来形**は、**werden + 不定詞**によってつくる。その際、定動詞第 2 位に werden の現在人称変化を。文末に不定詞を置く (枠構造)。話法の助動詞と同じパターンと考えればよい。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	werden の現在人称変化形	…	不定詞

例えば、

Was werden Sie machen? (← Was machen Sie?)
あなたはなにををするつもりですか。
Er wird abends Bier trinken. (← Er trinkt abends Bier.)
彼は晩にビールを飲むだろう。

◇ ドイツ語では**単純未来** (単なる予定など) は現在形で表すのが普通で、**推量** (～するだろう) や**意志** (～するつもりである) のようなニュアンスが加わった**意志未来**にのみ未来形を用いる。語順のみならず、その点でも wollen や mögen といった話法の助動詞を用いた文に近い。

* 英語にも単純未来と意志未来の区別は存在し、will は両方に、shall や be going to は後者に用いる。

Peter kommt bald.
ペーターはすぐに来る。(単なる予定 = 単純未来 → 現在形でよい)
Peter wird bald kommen.
ペーターはすぐに来るだろう。(推量 = 意志未来 → 未来形とする)
* つまり、2 番目の文には話し手の推量が含まれている。

II 現在完了

B. 現在完了・過去完了ほか (S. 49)

1 現在完了

haben / sein → 第2位（定動詞の位置）

過去分詞 → 文末

◇ ドイツ語の現在完了は、**haben＋過去分詞**もしくは**sein＋過去分詞**。

* 英語の現在完了形が *have*＋過去分詞だけであるのとは異なるのに注意。

◇ その際、定動詞第2位に haben か sein の現在人称変化を、文末に過去分詞を置く（枠構造）。

* つまり、語法の助動詞や未来形と語順は同じで、不定詞が過去分詞に代わる点だけが異なる。

第1位	第2位	第3位以下	文末
...	haben の現在人称変化形 sein の現在人称変化形	...	過去分詞

◇ 現在完了をつくるときに

- ・ haben を用いる動詞：**haben 支配**
- ・ sein を用いる動詞：**sein 支配**

と呼ばれる。haben 支配か sein 支配かについての公式は、以下の通り。

場所の移動、状態の変化などを表す**自動詞**：**sein 支配**

それ以外：**haben 支配**

- ・つまり、**他動詞**はすべて haben 支配。移動や状態変化に関わらない自動詞もほぼ haben 支配。

具体的には、以下の動詞は sein 支配。

- ・ **場所の移動**：gehen, kommen, fahren, ein|steigen, usw.
- ・ **状態の変化**：werden, sterben, ein|schlafen, wachsen, usw.
- ・ それ以外：**sein**, bleiben, begegnen, gelingen, geschehen, usw.

sein が sein 支配なのは見落としがちなので要注意。

* 移動に関わるかどうか基準になる点では、3・4格支配の前置詞のときと同じ。ドイツ語ではこの点が重要になることが多い。

** sterben (死ぬ) は生から死への状態変化、ein|schlafen (寝入る) は覚醒から睡眠への状態変化と考える。一方、schlafen (眠る) は単なる動作であって状態変化ではないので haben 支配。

*** なお、同じ動詞でも、意味によって haben 支配/sein 支配が異なるものも存在する。例えば、schwimmen は、単に「水泳する」場合は haben 支配、「ある場所まで泳いで行く」場合は sein 支配となる。

Er hat jeden Tag geschwommen. 彼は毎日水泳した。

Er ist über den Fluss geschwommen. 彼は泳いで川を渡った。

ほか、fliegen (飛ぶ/飛行機で移動する)、reiten (乗馬する/馬で移動する) など。

**** usw.は und so weiter の略で「などなど」の意味。英語の *etc.*や *and so on* に相当。

◇ その動詞が **haben 支配**か **sein 支配**かについては、辞書で確認することもできる。**haben 支配**の場合は**(h)**、**sein 支配**の場合は**(s)**と書かれているのが通例。

* 意味や方言によって異なる場合もあるが、そのときは注記がついている。

◇ 各種の現在完了の例。

Was hast du am Wochenende gemacht? (haben 支配の例)

君は週末になにをしたの。

Er ist schon nach Haus gegangen. (sein 支配の例)

彼はもう帰宅した。

* nach Haus は「家に向かって (=移動の目的地が家)」。家で (=単なる位置) は zu Haus。

Wir sind jung gewesen. (sein は sein 支配)

私たちは若かった。

← Wir sind jung.

私たちは若い。

Du hast eine Flasche Wein mitgebracht. (分離動詞の場合)

君はワインを1ビン持ってきた。

← Du bringst eine Flasche Wein mit.

君はワインを1ビン持ってくる。

* 分離動詞を用いた文の現在完了も、考え方は同じ。定動詞第2位に haben か sein の現在人称変化を、文末に第11課で学んだ分離動詞の過去分詞 (内部に ge-が入るもの) を持ってくる。

■ 現在完了の用法

ドイツ語の現在完了 ≡ 過去時制

◇ 現在の立場からの、過去の完了した事実の報告:

これについては、実態としてはほぼ過去形との区別が失われている。前述のように、ドイツ語の過去形は主に文章で使用するものであり、口頭では現在完了形で代用することが多い。このため、英語と異なつて、**gestern** (昨日) など特定の過去を表す副詞を一緒に使ってもよい。

* 英語でいう完了用法および結果用法に相当。

** 周知の通り、英語の場合、*yesterday* のような特定の過去を表す副詞は現代完了と併用できない。

Ich bin gestern nach München gafahren.

私は昨日、ミュンヘンに行った。

◇ 過去の事実をまとめて言う:

「いままで~したことがある」という経験の意味になる。

* 英語でいう経験用法に相当。

Sind Sie einmal geflogen?

飛行機に乗ったことがありますか?

Ich habe nie mit ihm gesprachen.

彼とは一度も話したことがない。

* この用法の場合、*einmal* (一度、*once*) や *nie* (一度も~ない、*never*) などの副詞が使われることが多い。

◇ なお、英語の現在完了形の用法は完了、結果、経験、継続の4種類で説明されるが、このうち継続については、ドイツ語では現在形を用いる。（⇒教科書S.22）

英語		ドイツ語
現在形		現在形
現在進行形		
現在完了形	継続	
	完了、結果、経験	現在完了形（／過去形）
過去形		
過去進行形		
未来形		現在形（／未来形）

・つまり、過去は現在完了で、単純未来は現在で表してよいので、日常的なドイツ語は現在と現在完了だけマスターすれば事足りてしまう（もちろん、正式な文章語ではその限りではなく、過去形、未来形、過去完了なども使い分ける）。

・ただし、sein、haben、話法の助動詞などに対しては、日常語でも過去形を使う。

* 特に話法の助動詞の現在完了の場合、3つの動詞要素が登場してしまつて煩瑣になるため。（⇒本配付資料S.8）

練習

次の現在形の文を、現在完了に直せ。なお、（）内は使われている動詞の不定詞である。

1. Ich tanze die ganze Nacht mit ihr. (tanzen)

私は一晩中、彼女と踊る。

2. Er schreibt heute eine Hausarbeit. (schreiben)

彼は今日、レポートを書く。

3. Er fährt heute nach Berlin. (fahren)

彼は今日、ベルリンに行く。

4. Mozart stirbt jung. (sterben)

モーツァルトは若くして死ぬ。

5. Wir bleiben drei Wochen in Hamburg. (bleiben)

私たちは3週間、ハンブルクにとどまる。

6. Sie spielt oft Klavier. (spielen)

彼女はよくピアノを弾く。

7. Am Sonntag kommt meine Freundin zu mir. (kommen)

日曜日、私の女友達が私のところに来る。

8. Wie lange schläfst du? (schlafen)

君は何時間眠るの？

9. Sie steht gegen 6 Uhr auf. (auf|stehen)

彼女は6時ごろに起きる。

10. Der ICE fährt um 7.30 ab. (ab|fahren)

そのICEは7時30分に出発する。

参考 過去完了・未来完了 (2) (3)

◇ 教科書には過去完了と未来完了も掲載されているが（ただし練習問題はなし）、必ずしも初学者向きの事項ではないため、これらをいま覚える必要はない。期末試験でも出題範囲外とする。以下、概略のみ一通り説明しておく。

◇ **過去完了**は、

- ・ **haben の過去人称変化＋過去分詞**もしくは **sein の過去人称変化＋過去分詞**。haben と sein の区別、および語順は現在完了と同じ。

第1位	第2位	第3位以下	文末
...	hatte の（過去）人称変化形 war の（過去）人称変化形	...	過去分詞

- ・ 過去完了は、過去のある時点を基準にそれ以前の出来事を述べるもの（英語と同じ）。このため、過去のある時点を示す副詞や副詞節と一緒に用いることが多い。



Ich hatte schon zwei Stunden auf ihn gewartet, als er kam.

彼が来たとき、私はすでに2時間も彼を待っていた。

- * 副文 als er kam（彼が来たとき）が基準点になって、それより過去について述べている。

Der Arzt kam zu spät, der Kranke war schon gestorben.

医者が来たのが遅すぎて、病人はすでに死んでいた。

- * 文の前半 Der Arzt kam zu spät が基準点となって、文の後半でそれより過去について述べている。

- ** この zu は「～すぎる」、英語の too に相当。

◇ **未来完了**は、

- ・ **werden の現在人称変化＋過去分詞 haben / sein**。haben 支配/sein 支配の別は現在完了と同じ。
- ・ 「過去分詞 haben / sein」を**完了不定詞**と呼ぶ。

第1位	第2位	第3位以下	文末
...	werden の現在人称変化形	...	過去分詞 haben 過去分詞 sein

- ・ 未来完了は、本来的には、未来のある時点を基準にその時点で完了している（はずの）出来事を述べるもの（英語と同じ）で、未来のある時点を示す副詞や副詞句と一緒に用いることが多い。ただし、動詞要素が3つ（過去分詞、haben/sein、werden）も登場して煩瑣であるため、現代ドイツ語では現在完了で代用されることが多い。



- ・ 一方、完了したことがらについての推量を表す場合もあり、このときは未来に関する副詞（句）は不要。

In zwei Stunden werde ich die Übersetzung sicher schon geschafft haben.

2時間以内に私はその翻訳をきつともうやり終えているだろう。

* in zwei Stunden（2時間以内に）ということで、2時間後を基準点として、現在からその時点までに完了しているはずの出来事を述べている。

= In zwei Stunden habe ich die Übersetzung sicher schon geschafft.

* 上記の文を現在完了で代用したもの。

Er wird das Haus schon vorgestern verlassen werden.

彼はすでに一昨日、家を出たことであろう。

* 単なる完了した（と話し手が思っている）ことがらを推量するタイプの用法。この場合、未来とは無関係なので、未来のある時点を示す表現も存在しない。

参考 話法の助動詞の完了形

◇ 教科書には記載がない話法の助動詞の完了形についての補足。これらについても、いま覚える必要はなく、試験でも出題範囲外。以下、やはり概略のみ一通り説明しておく。

◇ 話法の助動詞の変化表を見ると、過去分詞が dürfen - durfte - gedurft / dürfen のように、必ず2種類の過去分詞が記載されている（授業第18回「不規則変化動詞のまとめ」でも触れた）。現在完了や過去完了をつくる場合、

- ・本動詞として使うとき：ge-がつく方の過去分詞
- ・助動詞として使うとき：ge-がつかない方の（=不定詞と同形の）過去分詞

を、それぞれ用いる。

Er hat Deutsch gekonnt.

彼はドイツ語ができた。

Er hat Deutsch sprechen können.

彼はドイツ語を話すことができた。

◇ 話法の助動詞はすべて haben 支配である。

◇ 図式化すれば、

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	haben の現在人称変化形	…	不定詞 話法の助動詞の過去分詞

◇ 話法の助動詞を用いた文の完了形は、未来完了と同じく動詞要素が3つ（不定詞、話法の助動詞の過去分詞、haben）も登場して煩瑣である。このため、話法の助動詞の過去時制には、口頭でも現在完了ではなく過去形を使うことが多い。（⇒教科書 S. 49）

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>